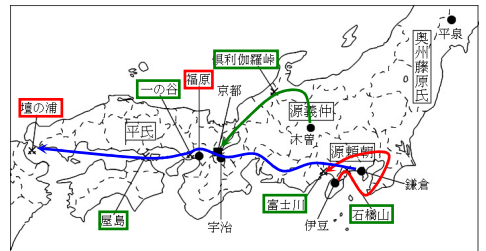


源氏の動向		平氏の動向
安徳天皇	1180年 <u>以仁王</u> (後白河法皇皇子) の令旨 (天皇以外の皇族からの命令) → <u>源頼政</u> の挙兵 (宇治の平等院付近で敗死) 1180年 <u>源頼朝</u> の挙兵 (北条時政の援助により伊豆で挙兵) 石橋山の戦い (敗北) → 富士川の戦い (平維盛を破る) <u>侍所</u> (御家人統率機関) 設置 (1180) ★ <u>和田義盛</u> (侍所別当) (御家人) 京都には上らず、まずは関東で政治体制を整えよう 1183年 <u>寿永二年十月宣旨</u> 頼朝が東海道・東山道・北陸道の支配権を朝廷に要求 → 朝廷が頼朝の東国 (東海道・東山道) 支配権を承認 → <u>北陸道は除かれた</u> <u>公文所</u> (一般政務機関) 設置 (1184) ★ <u>大江広元</u> [公文所別当] (公家) → のち、 <u>政所</u> となる (1191) <u>問注所</u> (訴訟処理機関) 設置 (1184) ★ <u>三善康信</u> [問注所執事] (公家) 1184年 <u>源範頼</u> ・ <u>源義経</u> (頼朝の弟) を派遣 宇治川の戦い (山城国で義仲敗死) → ノ谷の戦い (摂津国) → 屋島の戦い (讃岐国) 1185年 <u>壇ノ浦の戦い</u> (長門国) (平家滅亡) → <u>鎮西奉行</u> 設置 (1185) のち、後白河法皇が頼朝追討を義経に命じるが失敗 → 逆に義経追討の院宣を発す <u>守護・地頭</u> 設置 (1185) ★ <u>京都に置かれた守護</u> = <u>京都守護</u> 大江広元の建議で源義経・行家追討の名目で設置 → 北条時政を朝廷に派遣 1189年 奥州平定 (<u>藤原泰衡</u> を滅ぼす) → <u>奥州総奉行</u> 設置 (1189) 1190年 頼朝が初の上洛 → 頼朝が <u>右近衛大将</u> (右大将) に就任 1192年 <u>後白河法皇</u> 没後 → 頼朝が <u>征夷大将軍</u> に就任 1195年 東大寺大仏再建供養 (重源による勧進・陳利卿 (宋の工人) の協力) 寺院建立などの寄付を募ること	大輪田泊 (摂津国) の近く 1180年 <u>福原京</u> (摂津国) 遷都 半年後に平安京に戻す → <u>平重衡</u> の南都焼き討ち <u>興福寺</u> ・ <u>東大寺</u> 1181年 平清盛死去 1181年 ~ <u>養和の飢饉</u> (西国中心) 1183年 平家都落ち 安徳天皇も都落ち
	宣旨 = 天皇の命令 院宣 = 上皇・法皇の命令 令旨 = 皇子・親王の命令 [源義仲 (木曾で挙兵)] 1180年 <u>源義仲</u> が挙兵 (木曾) 1183年 <u>俱利伽羅峠の戦い</u> 平維盛を破る 1183年 義仲入京 (義仲軍乱行) 翌年 <u>征夷大将軍</u> となる → <u>旭将軍</u> と呼ばれる	



将軍補佐 将軍 親幕派の公家を任命 [議奏公卿] (朝廷の重要政務) <u>九条兼実</u> (藤原兼実) 『玉葉』	執権 執権補佐 連署 侍所 (1180) 御家人の統率 別当 = <u>和田義盛</u> 公文所 (1184) 一般政務 別当 = <u>大江広元</u> → 政所 (1191) 問注所 (1184) 訴訟・裁判 執事 = <u>三善康信</u> 評定衆 (1225) 引付衆 (1249) 有力御家人から任命 裁判専門 守護・地頭 (1185) 承久の乱後に設置 京都守護 (1185) → <u>六波羅探題</u> (1221) 鎮西奉行 (1185) → <u>鎮西探題</u> (1293) 奥州総奉行 (1189) 元寇後に設置	[経済基盤 (幕府は経済的には貴族的な側面を持っていた)] ① <u>関東御領</u> (平家没官領など将軍が所有する荘園) 500カ所 ② <u>関東御分国</u> (関東知行国) (将軍の知行国) 最大で9カ国 ③ <u>関東御公事</u> (幕府が御家人に課す臨時の公共事業費) 守護 (各国の有力御家人を任命) ★初期は <u>惣追捕使</u> ・ <u>国地頭</u> と呼ばれた 任務 = <u>大犯三カ条</u> (大番催促・謀叛人の逮捕・殺人者の逮捕) 国内の御家人に京都大番役に行くよう命令 給与 = 段 (反) 別 5 升の兵糧米 (1185) → 翌年廃止 → 1段 (360歩) の土地につき (荘園・公領を問わず) 地頭 (幕府と主従関係を結んだ御家人) ★初期は <u>郷地頭</u> と呼ばれた 任務 = <u>荘園</u> や <u>公領</u> (国衙領) を管理 → 年貢徴収・納入と治安維持
	図解NOTE① [公武二元支配] 国司 (朝廷) (公) 年貢・公事 郷司・保司 公領 (国衙領) 名主 下人 所従 ① 所領支配を保障して ② もらうため主従関係を結ぶ = 御家人となる ① 本領安堵・新恩給与 (所領支配を保障 → 地頭に任命) ② 軍役 (戦時)・番役 (平時) (将軍に税を納める事はない) 将軍 (武) (公) 荘園領主 (貴族) 年貢・公事 在地領主は 荘官 名主 下人 所従 任命 任命 ★ <u>公武二元支配</u> ...地頭は国司 (朝廷) や荘園領主に年貢などを納める一方、幕府と主従関係を結ぶことで公武の二元的支配を受けるようになった。 ※将軍と主従関係を結ばなかった武士 = <u>非御家人</u>	図解NOTE② [封建制度 (土地給与を通じた主従関係)] 主に地頭に任命されることで土地支配を保障される 本領安堵 (先祖伝来の所領の支配を保障する) 新恩給与 (功績があった際、新領地を与える) 将軍 (奉公) (御恩) 御家人 「いざ鎌倉」 軍役 (戦時に際して鎌倉に参集し出陣する) 鎌倉番役 (幕府を警護する) 京都大番役 (朝廷を警護する) } 番役 (平時)

一 図解NOTE [将軍家系図]

